

「研修」の
現場^を行く!



香川県市町職員研修センターの入る
香川県自治会館



香川県市町職員研修センター

県との緊密な連携のもとに 数々のユニークな講座を提供

県内8市9町、および一部事務組合を対象に、研修事業を行っているのが、香川県市町職員研修センターである。現在までの歩みを見ても県との結びつきが強く、能力開発研修はすべて県との合同研修となっており、数々のユニークな講座も提供している。

同センターの研修担当者の所感を交え、いくつかの講座の内容をレポートする。



県と共同で市町職員の 研修をスタート

公益財団法人香川縣市町村振興協会は、市町村振興宝くじの収益金等を活用し、市町村の振興発展を図ることを目的に、県内市町の総意をもって1979年、財団法人として設立された。

以来、市町が行う公共施設や緊急に整備を要する施設等の整備のための長期貸付事業をはじめ、市町振興のための各種助成や各種情報資料等の提供を行ってきた。2005年からは、県と共同で市町職員に対する研修事業を開始。翌年、事務局内に設けられたのが香川縣市町職員研修センターである。

同センターでは、研修事業について以下のような基本的方針を打ち出している。

国内外とも激動の時代のなか、各自治体において多くの課題に適切かつ迅速に適応していくためには、これまで以上に職員一人ひとりの能力・意識や意欲を向上させていく必要があり、人材の育成が大変重要になっている。

こうした観点から、市町職員研修は、組織として高いパフォーマンスを継続的に発揮するため、引き続き職員個々の力を最大限に発揮させることのできる、マネジメント能力や経営感覚を身につけた管理監督者の養成を進める。

また、地方創生の取組みに必要な政策形成能力の向上を図り、つねに目的意識、問題意識、コスト意識やプロフェッショナル意識をもち、住民の視点に立ち、自ら考え、行動できる職員の育成を目指す。

また、研修の目指す方向として次の4つを掲げている。

- ① 公務員としての自覚を促し、常に地域のため、住民のために行動できる自律型職員の育成
- ② 公務員としての能力・意識、仕事に対する意欲のレベルアップ
- ③ 他の自治体職員と交流できる貴重な機会であり、お互いに刺激し、高めあう場とすること
- ④ 市町の人材育成を支援し、補完すること

延べ12日間にわたる 充実の初任者研修

研修体系は、次頁に示すとおりである。まず階層別研修から見ていく。ここで特徴的なのは初任者研修の充実ぶりである。180人の研修生を12の班に分け、前期は10日間、後期は2日間、計12日間にわたりさまざまな講座が提供されており、その分野も多岐にわたる。今年度の実施計画を基にそのいくつかを紹介していこう。

3日目には【スポーツ（バレーボール）】（【 】内は講座名、以下同様。）が行われる。これは、他の自治体職員との交流や仲間意識の醸成などに大いに役立っている。最初はなかなか打ち解けられない研修生たちも、ここで一気に親密度が増していくという。

6日目には【手話の基礎知識】の講座がある。役所の窓口に来る人のなかには手話を必要とする人もいる。今はAIなどを使ってコミュニケーションをとれるだろうが、まず自分から進んでコミュニケーションをとれるように、手話の初歩的な知識を学ぼうという狙いから行われている。

同じく6日目には、【多文化共生に向けて】という講座もある。これは、国際交流員を講師にして、外国人が香川県で働き、生活するにあたって困っていることなどを話してもらい、多様な文化をもつ人々を受け入れ、外国人住民との共生を図っていくにはどうしたらよいかを考えてもらう内容となっている。

さらに後期の1日目には、【不測の事態に備え



初任者研修の講座の一つ【スポーツ（バレーボール）】

て（普通救命講習）という講座が実技を交えて行われる。地震や水害などの災害が、いつ、どこで発生するかわからない。急に体調が悪くなった人が出た場合に、傍観者ではなく、まず自分で動けるようにするため、その基礎的な実技と知識を学ぶものである。

研修生からは、以下のような感想が寄せられている。

◆講義を受ける前、12日間は長いと思っていたが、終わってみればとても楽しく時間が経つのが一瞬だった。

◆話を聴くだけでなく、グループでの話し合いや実践が多く、非常に充実した講義を受けることができた。これから住民のために働く仲間たちと、働く場は違っても交流することができ、楽しく頑張ることができた。

◆どの研修も公務員として大切なことを学ぶことができたので、今後職場に戻り、業務を通して実践していきたい。

◆最後のトップの講話で観音寺市長がおっしゃっていた「5年後も10年後も発展し続けるまちをめざす」という言葉が印象に残った。これから公務員として自分の自治体に貢献できるよう努力したい。

《研修担当者の所感》

研修生たちは毎日高松市内にある研修会場まで通っています。全国で最も面積が小さい香川県では、県中央部の高松市までの移動が比較的

令和8年度研修体系



簡単なもので、私たちの研修センターには宿泊施設がありません。

研修生からの感想にもありますが、最初は2週間近くの研修に不安を感じていたものの、研修を通じて仲間意識が芽生え、終わってみれば「あっという間だった」という感想をもつ人が多いようです。



特に、バレーボールの後からグループワークが活発になるため、開講後できるだけ早期にスポーツを実施するよう調整しています。

2026年度から3つの新しい講座がスタート

ここからは、能力開発研修について解説していく。2026年度から、次の3つの講座を新しく始めた。

【社会調査の方法講座】

〈目的〉

インターネット調査、世論調査、消費者調査など、世の中では多くの社会調査が行われており、地方自治体でも各種計画策定時をはじめ、さまざまな機会において社会調査が行われている。また、近年では、施策や事業の立案を行う際、「証拠に基づく政策立案（EBPM）」の活用が求められている。社会調査を実施するうえで必要となる知識や基本的な考え方について学び、効果的な情報収集能力を習得する。

〈主な内容〉

〔講義〕

●社会調査の現状 ●2つの社会調査（質的調査と量的調査） ●標本調査の原理

〔グループワーク〕

●社会調査の企画 ●質問票の作成

【カスタマーハラスメント対策講座】

〈目的〉

近年社会問題となっているカスタマーハラスメントについて、公務職場の特殊性を踏まえながら、発生を未然に防ぐための接遇スキルおよび発生した場合の対処方法について具体的に学び、すぐに職場で生かすことができる実践的な対応力を身につける。

〈主な内容〉

〔講義・グループワーク・ロールプレイ〕

●カスハラ of 構造理解 ●未然防止マネジメントとカスハラ対策 ●類型別対応 ●行動計画検討

《研修担当者の所感》

研修についてのアンケートで、カスタマーハラスメントについて取りあげてほしいという要望が数多く寄せられていました。こうしたニーズに応えて、本年度より新しくスタートしました。

【チーム力を高めるコーチング講座】

〈目的〉

チームの力を最大化するため、メンバーの主体性を引き出すコーチングの理論と技術を習得する。対話を通じて個々の能力を伸ばし、成果に繋げる実践的な手法を学ぶ。

〈主な内容〉

〔講義・グループワーク〕

●部下・後輩の指導のポイント ●チーム力を高める関わり ●チーム力を高める ●自分のパワーを倍増させる ●自分の成長に責任をもつ

《研修担当者の所感》

OJTによって上司が下の人に直接教える機会が多いなかで、Z世代の若者に対して接し方がわからないという声をよく聞きます。そこで、現場での実践的なコーチングを学ぶためにこの講座を新規で開講しました。

将来に向けて自分磨きをする自治体職員政策研究

各自治体での政策立案のためには、そのための基礎を学び、さらに現状に即したトレーニングを行って、自治体職員としてのパワーをつけていく必要がある。そのために用意されているのが、次の2つの講座である。

【地域課題解決のための政策基礎講座】

〈目的〉

地域づくりの観点から、自治体政策に関して、政策形成やEBPMの基本的な考え方を踏まえ、「ロジック・モデル」の活用を通じた地域課題解決など、政策立案の基礎を習得する。

〈主な内容〉

第1回 ●自治体政策や政策形成の基本的な考え方 ●EBPMの基本とロジック・モデル

●政策の実効性確保

第2回 ●グループワーク ●ロジック・モデルの発見・講評

そして、これを学んだ職員がさらにステップアップし、自分磨きをするために、次のような講座が用意されている。

【自治体職員政策研究】

〈目的〉

自治体を取り巻くさまざまな地域課題につい



研修風景

て、現状分析や調査・研究を行い、参加する自治体職員の政策形成能力の向上を図る。また、参加自治体職員同士の交流を通じて、県内自治体間の連携を促進する。

〈主な内容〉

研究テーマ：異なる分野の連携による新たな価値の創出

1. 実施方法

グループ（5名程度）に分かれ、調査・研究を行う。

実施期間は、5月中旬から10月上旬。

2. 成果発表

研究成果については、県および市町の関係課職員に対するプレゼンテーションにより発表する。

《研修担当者の所感》

研修では、県職員と市町職員からなる2つのグループを作ります。週1回程度集まり、自分たちの研究テーマにそって調査・研究を行っていきます。そのテーマは、地域に眠っている新しい価値を発掘して、それを地域おこしに活用しようというものが多いのですが、こうした活動を通して県職員と市町職員の交流を図っていくことも、狙いの一つです。

ゲームの力で地域を元気にする ゲーミフィケーション講座

ゲーミフィケーションとは、ゲームの仕組み（ポイント、報酬など）をゲーム以外の分野に取り入れ、人の行動や学習の意欲を高めることである。これを地域振興などに活かしていこうと

いう次のようなユニークな講座がある。

【ゲームクリエイターに学ぶゲーミフィケーション講座】

〈目的〉

近年、デジタル技術とゲーム要素を駆使して地域の魅力や住民のやる気を引き出し、地域振興や教育、経済の活性化、健康増進等を図る取組として、ゲーミフィケーションが活用されるケースが増えている。また、自治体のルーティンワークにおいても、ゲーム要素を取り入れることで、業務の効率化と楽しい作業環境を実現している。

この研修では、「ゲーミフィケーション」の基本的な考え方を理解し、自治体や企業等の取組事例を参考に、地域の課題解決や業務効率化等に向けて、ゲーム要素をどのように活用していくのか、基礎的な理論を学び、具体的な手法を習得して、実践に繋げることを目的とする。

〈主な内容〉

第1回

●ゲーミフィケーションとは？ ●身近なゲーミフィケーション ●ゲーミフィケーションの事例紹介

第2回

●ゲーミフィケーションデザイン ●身近な環境でゲーミフィケーションを取り入れた事業等

《研修担当者の所感》

身近な例でいえば、鉄道の駅を回ってスタンプを集めるスタンプラリーも、ゲーミフィケーションのひとつといえるでしょう。香川県におけるゲーミフィケーションの例としては、「マイチャレかがわ！」という健康アプリを香川県が提供し、県民の健康づくりを応援しています。ゲーム感覚でまちづくり、地域おこしをしていきましょう、という動きはこれからさらに高まっていくと思います。

瀬戸内国際芸術祭を体感して 地域づくりのマインドを学ぶ

「瀬戸内国際芸術祭」は、瀬戸内海の島々と沿岸部を舞台に、3年に1度開催される現代アートの祭典である。来訪者は展示されているアー



トを道しるべに島々を巡りながら、アーティスト、地域住民、ボランティアらと交流し、瀬戸内の景観、自然、歴史、文化、生活、産業、食などの魅力にふれることができる。

2010（平成22）年に第1回が開かれ、これまでの作品のなかには常時展示されているものもあり、なかでも有名なのが、直島にある草間彌生（故人）の「南瓜（かぼちゃ）」という作品であろう。こうしたアート作品にふれながら、地域づくりのマインドを学ぶ次のような講座も用意されている。

【瀬戸内国際芸術祭に学ぶ地域づくり講座】

〈目的〉

瀬戸内国際芸術祭は、単なるアートの祭典ではなく、アーティスト・訪れた人々・地域に住む人々との間に多彩な交流を生み出している。地域に新たな未来・可能性を示す「瀬戸内国際芸術祭」を通して、これからの地域づくりや地域の豊かさとは何かについて考え、今後の地域づくりに向けた政策に必要な考え方を習得する。

さらに、この芸術祭から、「挑戦」「現場主義」「連携」の重要性を学び、地域課題の解決に向けて実践できる人材を育成する。

〈主な内容〉

第1回（大島）

- 大島の歴史学習、アート鑑賞、振り返り・グループワーク

第2回（男木島）

- アート鑑賞・図書館見学等、島民による講演、グループワーク

《研修担当者の所感》

香川県内の2つの島をめぐる、地域の活力創出や、地域づくりに必要な考え方やマインドを学ぶのが、この講座です。この島に移住された方の声を聴くのも、これからの政策形成で大きな力になると思います。

YouTuberから学ぶ デジタル・マーケティング講座

住民に情報を届けたいのに、届いていないかもしれない。市町の職員は、日常の業務のなかでこうしたもどかしさを感じる人が多いと思われる。情報の届け方にも、戦略がある。実際にYouTubeで情報発信を行っているYouTuberを講師にして、これを学ぶのがこの講座である。

【YouTuberから学ぶデジタル・マーケティング講座】

〈目的〉

自治体におけるデジタルによる情報発信は、災害発生時などにおいて、生命にかかわるライフラインとなっている。また自治体による情報収集については、移住定住施策、観光施策、ふるさと納税、自治体の人材確保などについてネットを通じて行われている。

そのために、デジタル・マーケティングに関する知識を習得し、効果的な情報発信や施策を実践できる人材を育成する。

〈主な内容〉

第1回

- デジタル・マーケティングとは？ ●デジタル・マーケティングによるプロモーション戦略事例紹介 ●グループワーク

第2回

- 前回研修の振り返り ●事前課題（プロモーション企画提案書）のグループワーク ●プロモーション企画提案書の発表・講評

なお、この講座を受講した職員が助言・指導を行った動画は、以下で視聴できる。

<https://www.youtube.com/watch?v=U8XHJ0e5H60>

《研修担当者の所感》

香川県は『うどん県』と呼ばれ、調査や定義により異なりますが、うどん店はおよそ600～700軒前後とされており、俗に「歯医者数の数より、うどん屋の数の方が多い」ともいわれています。これは、いろいろな団体がネットで盛んに情報発信をした結果でもあると思われます。



香川県市町職員研修センター職員の皆さん